

平成30年度 第1回能美市総合教育会議 議事録

I 日 時 平成30年10月26日(金)

開会 午前10時30分 閉会 午前11時54分

II 場 所 能美市役所 1階 大会議室

III 出席者

【構成員】

市 長	井出 敏朗
教育長	谷口 徹
教育長職務代理	南 俊博
教育委員	亀田 美穂
教育委員	畑中 美千代
教育委員	秋山 珠緒

【事務局】

総務部長、総務課長、総務課課長補佐

【教育委員会管理局】

管理局長、教育委員会管理局次長兼教育総務課長、学校教育課長、
スポーツ振興課長、生涯学習課長

【司会進行】

総務課長

【傍聴人】

0名

IV 内容

1 開会

2 挨拶

(市長)

おはようございます。本日も大変ご多用のところご出席をいただきまし

て、御礼を申し上げ、そして常日頃、能美市の教育力の向上に多大なるご功勳をいただきましていることにも御礼を申し上げたいと思います。本当にありがとうございます。

先日、校長先生や教頭先生の会に出席させていただきました、今の能美市の現状や課題を皆様方にご説明する機会がございました。それから、10月に入りまして、市内の小中学校で開催されております、計画訪問等に行かせていただき、研究授業の参観もさせていただきました。

実はそこには設計がございまして、能美市の地域児童サービスを一新していきたいという思いがあります。おかげさまで、能美市の人口は今日現在5万300人を超えました。特に最近は外国人の方々の逗留が多く5万300人を初めて超えました。ただ、その一方能美市も将来的には人口が減少していくということが予想をされております。その為、今の市政を維持、さらに発展させていくためには移住定住の促進をしていかななくてはならないというのが、能美市にとっても最大の課題の一つです。

そこで、この移住・定住の観点として、どんなところに皆様が移住・定住を考えるかといいますと、現代では4つポイントがあると言われております。1つ目は、生活がしやすく、子育て環境がいいという生活観に関すること。2つ目は働く場所があるということ。3つ目は安心安全に暮らせる街ということ。そして、4つ目に教育力が高い街だということが言われています。自分自身に置き換え考えても、今申し上げたような4つのポイント、観点というのが重要なのではないかなと思っています。

そういった意味で、教育力というのをさらに高めていきたいという思いの中、先ほど申し上げたような、現地現場に足を運んで、色々な事の確認をさせていただいているという事になります。

これは毎回申し上げておりますが、教育力の向上というのは、学力が高いという事だけではなく、子どもたちが毎日、明るく元気に学校に向かうという事であり、それこそが、教育力を高める最大の要因ではないかなと思っています。その為には、先生の皆さんが毎日健康で、教壇に立つてもらい必要があり、働き方の改革もしていかななくてはならないと思っています。加えて、やはり子ども達を支える地域、地域の皆様方も、大事なの

ではないかと思えます。

本日は議題として、2つの案件に関して、皆様方にご教授をいただくという流れになっています。是非、県内一、能美市は教育力が高いと言われるように、皆様方と取り組んでいきたいと思っております。本日は大変限られた時間でございますけれども、ご指示、ご指導を賜り、色々なご意見を頂ければと思えます。よろしく願いいたします。

(教育長)

皆様、おはようございます。昨年、井出市政が誕生しまして、それまでありました、教育大綱の見直しをいたしました。井出市政の教育行政を推進するにあたるミッションを提示頂いたわけですが、その中心は今ほど市長のご挨拶の中にもございました、学校力の向上、あるいは学力の向上という事です。そして、ふるさと愛の醸成。これが中心の課題だと私は受け止めております。

市長のお話の中に出てきましたように、先生も子どもも笑顔で通えて、楽しく過ごせる学校づくり。あるいは、自分が生まれて生活していく、この能美市をこよなく愛すること。これは、小学校、中学校で何かしら懐かしいなと思う体験や感情を経験できれば、それがただ単に、ただ一人の先生に対する懐かしさであったとしても、生きていく上で心のよりどころになるのではないかなと思っております。そんな教育活動が推進されることが本市の教育の様々な課題を解決する事に繋がるのではないかなと思っております。今日は市長に、是非、平成30年度、市長から頂いたミッションがどれぐらい進捗しているのか、というような事を知っていただき、教育委員会として力点を置いているコミュニティ・スクールの事、それから、学力向上の事をお示ししながら、ご理解をいただき、様々なご支援をお願い致しまして、私の挨拶とさせていただきたいと思えます。本日はよろしく願いいたします。

3 協議事項

(1) 和気小学校のコミュニティ・スクールについて

(事務局)

和気小学校のコミュニティ・スクールについて、和気小学校長が説明。

(畑中委員)

自分が子ども達を育てた時は、自然は怖いものではなくて、普通に一人で遊びに行っても良いというものでしたが、それは、今は環境的に難しい状態とはなってきています。計画訪問をしていた時に、和気小学校は後ろに虚空蔵山があるので、子ども達の体力作りなど、いろんな面で役立つので、むしろ登ってくださいといつも言っていました。しかし、クマがいるという事でとてもそれが出来ませんでした。その後、色々な団体の協力もあり、こういう風に子ども達が自然に関われるようになったという事がすごく嬉しいです。先生というのは学校の学習は勿論、その子ども達の間形成にも関わっていかねばなりません。学習の面は先生方の努力にお任せするしかないですが、後、手助けができるとしたら、自然が子ども達の成長を手助けしてくれるのではないかなと思っています。今、虚空蔵山を普通に登れる事が良かったなって感じております。

(和気小学校校長)

今の虚空蔵山についてですが、きれいに登山道を整備していただき、子ども達の登りやすい環境を作っていただいたということが一番だと思います。

(南職務代理)

提案を見て考えていたのですが、例えば、算数等、他教科と自然活動が対応出来る学びもあるかなと思います。

少し話は変わりますが、今、色々な面で変わり目ですよね。それで影響や障害も出てくるとは思いますが、例えば蟹淵での体験等を外に発信できるように訓練を出来ないかと思いました。

これはまだ経験が浅い小学生では難しいかとも思いますが、例えば、外部の人に、自分が住んでいるところについてうまく説明できるようになっ

て欲しい。また、これから、英語教育も入ってきますから、外国人にある程度説明できるといいと思います。これは中学になっても難しい事かもしれませんが、そういう方向性を一つ持つのもいいと思います。勿論、他の科目も必要ですが、それは今でもかなり反映されているような気がします。各教科の先生が自分の教科と実際の世の中の事がどう関わってくるか教えられると良いですね。そういうような形で、中学校が終わるまで、切れ目がない体制を全体として考えていくと、将来もっと役に立ってくのではないかと思います。次回の全体の会で、1つ目標を立てて先生方や教育委員会がやっていければかなり大きな教育力になっていくのではないかと思います。

(和気小学校長)

今、南委員さんが発信という事を言われました。そして、学校教育法に新しく、思考力、判断力、表現力というその3つのキーワードが出てきました。その表現力のところで、総合的な学習では調べてまとめて発信するという事をやっています。最初に言われた蟹淵の話ですが、本校では大阪府大阪市の高倉小学校と交流しています。その学校に対して、蟹淵や能美市の調べたことを送っています。このように、自分たちの調べたことを、こんな風に相手を意識して発信しているという事も学習の中では出来るだけ仕組むようにしています。なので、ふるさと学習を発信まで結び付けていくことは、われわれ教師も意識して行っています。

(南委員)

はい、嬉しいです。

(亀田委員)

今ほども、分かりやすい、和気小学校のコミュニティ・スクールについての説明をありがとうございました。全体として、私も南委員と同じように思ったのですが、昔は、地域は中に入らないで、学校が全て黒板の前で教える時代でした。そこから今の時代は、要因も色々ありますが、子ども

達が自ら主体的に出ていくという教育の仕方に変わってきたのではないかと思います。これから将来に向かって子どもたちが生きる力を使い、蓄えて、発信していかなければならないと思います。今、和気小学校のコミュニティ・スクールの説明を見させていただきまして、1年生から6年生までがそれぞれが1年をかけて1つのテーマで深く学習する事や地域の方と関わって、自分のことを地域の人にも話す事で子どもが育っていくのではないかなと思いました。そして、地域に根差した素晴らしい大人になって成長していくのではないかと思います、和気小学校の子ども達を頼もしく感じました。

今学校では、先生がすごく忙しいと思います。不登校やいじめ、それから学力向上と色々なことをやっていかなければいけない中で、多忙化していると思います。そこで地域の方も参入して子ども達を地域で丸ごと育てていけたらいいと思います。ただ学力だけつけて大人になっても、何もできない子ばかりが育ってしまうので、今までに出てきたような色々なことを教えなければいけないと思います。そういう風に一緒に交わりながら地域の中で暮らしていくことで先程教育長が言われましたような、県外等に出た後も、ふるさとを思いだして、懐かしいと感じる、ふるさと愛を持った子どもが育つのかと思います。学校では学びきれない事を地域の方に教えていただいて、子ども達が総合的に良い大人になっていくことを目指したコミュニティ・スクールかなと感じました。ありがとうございます。

(和気小学校長)

ありがとうございます。ふるさと学習はキーワードだと思います。教員一人、担任一人では、教えきれない事がある中で、地域に出て行って地域の人材をたくさん活用すれば、その方たちが地域の先生となって子ども達を教えてくれるし、先生方の負担も少しそこで軽くしてくれるのではないかと思います。そういうものを推進していく役割がやはり学校運営協議会にはあるのだという事だという風に思います。

(亀田委員)

それによって課題も色々新しく出てくると思いますが、お願いします。

(秋山委員)

ふるさと学習、探究活動というのはすごく深くて、これが小学校、中学校、高校で社会人になっても調べ学習、そして人前で発表するというプレゼンテーションに繋がる大事な力になると思います。それを小学校一年生の時からテーマを決めてやっていくという事にすごく感動いたしました。

地元の高いコミュニティ力に支えられて育てば、子ども達も大きくなった時にまた、地元に戻って、大事にしてもらったからこそ、ここにきて何かしたいという強い生きる力に繋がっていくのではないかと思います。それが、コミュニティ・スクールの活動の一番大事なところじゃないかと親としても思います。ありがとうございます。

(教育長)

市長に一つお伝えしたいのですが、コミュニティ・スクールでは地道な活動をそれぞれの学校でやっていくことになると思いますが、地域学校共同活動という事で、色々な取り組みをされていく時に、協力が必要なものもあります。その辺を市長にこの機会をお願いさせていただきたいと思います。

(南職務代理)

例えば文化活動などでも学力は色々必要です。それからスポーツもそうです。そういうものに対しても色々な形で発信する能力をつけるような、そういう工夫が出来れば、それがふるさと愛にも繋がると思いますし、よく知っていることは、伝えやすく、単語も覚えやすいです。そういった好きなものに関しては子どもも、色んな事をすぐに覚えるのではないかなとも思いますので、そういう風にしていくとかなり記憶力があがってくるのではないかと思います。

(秋山委員)

寺井中学校だと思っておりますが、オランダの方が能美市の教育や能美市に魅力を感じて、視察に来られたっていう記事を見ましたので、正に繋がっているのだなととても感じました。

(畑中委員)

秋山委員のおっしゃった寺井中学校の件は実際にありました。先般北國新聞に載ったのですが、修学旅行で京都や広島を訪れている外国人の方に能美市のことを伝えたり平和についての考えを英語で発信したりする取り組みを行いました。その時に出会った方がたまたまオランダの学校の先生だったそうです。そして、その方が日本に教育事情の視察に来られた機会に寺井中学校を訪れて、向こうの教育事情を子ども達に教えてくれるという、お返しのような形で交流が出来ました。子ども達にとってこれはかなり自信がついた活動だったと思います。これは、寺井中学校だけじゃなくて根上中学校や、辰口中学校も修学旅行の取組みの中でやったもので、そういった総合的な学習の時間を活用してやっている事が子ども達の自信に繋がっていくいい例として新聞報道していただいたもので、ありがたかったと思います。

(亀田委員)

やはり、発信できる為には自信が必要で、そうすると何かアピールする際に総合学習などが役立つと思います。中学校でしたら、そういう学んだことを発信できるというのは自信に繋がりますから地域の魅力を皆さんに発信できるような子ども達をそういう学習で徐々に増やせるのかなと思います。

(2) 能美市の学力向上の取組みについて

(事務局)

能美市の学力向上の取組について、学校教育課長、担当者から説明。

(畑中委員)

若い教師、ベテランの教師、全てが一緒になって学校を良くしようという体制、ベテランはベテランで、高いところに居るだけではなく、みんな一緒になってその学校の問題点を無くそうとする体制というものが望まれるのではないかなと思います。どんな小さな失敗でも先輩方が自分の経験を交えてアドバイスするなどチーム一丸となる、そういう学校づくりをしていけば、その先生方のやる気が子ども達にも届くような気がしています。

もう一つ、まとめを書くことが出来ない子ども達が能美市は多いという事でしたが、それは、勉強が分からないということです。分からないのは、先生のやり方の問題もあるかもしれませんが、将来とても困る事なので、そこを特に重視してほしいと思います。

先生が一人一人の子ども達に向き合って、どこが分からないかを分かっているかと、分かった子に合わせて授業がどんどん進んでしまっていて、それに分からない子がついていけなくなって、発言しなくなってしまっている。そんな中でグループの話し合いをしても、分かる子だけが話してしまっていて、分からない子はずっと黙ってしまうことになってしまいます。私は会社勤めの時に、失敗は常に報告するという事にしていました。ベテランの先生は失敗を話すのは面子もあり怖いかもしれませんが、そういう話し合いをして、先生方同士を深めていくという事を願っております。

(指導主事)

学校の中では先生方がお互いにどういう風に授業を進めていけばよいかというのを話す、校内研修会というのがあるのですが、その中では今、畑中委員さんが言われたような、子ども達が理解していないままにグループ活動に入ってしまうのはダメだろうというような話も出てきています。その時も、どうすればいいんだろうかという事を話し合いました。例えば、まず自分で考えを持ってからグループ活動に入る。そうしないと、ただのお客さんになってしまう。そういう内容を校内研修会で話し合っております。そんな課題は各学校それぞれ持っているのです、その課

題に応じて校内研修会を進めています。そんなふうに先生方が勉強していく事が大切かなという風に思っています。

(亀田委員)

小さい時期にきちんと基本的な学力をつけないと、中学になってからは中々学力が上がらないというのが分かりました。先程、保小連携がすごく大事という事がお聞きしましたが、やはり集団的教育から始まると思います。子ども達は一年生の時からよく見る、よく聞く、よく考えるという基本的な勉強するイメージを身につける事が必要だと思います。そういう態度から自然と色々なことが吸収され学校生活での色々なものが身につくと思います。学習能力を高めるにはやはり小さい時からの取り組みが大事だという事に気が付きました。

そして、先生は子ども達にたくさんの事を教えたくて色々なことを発信されるのですが、子ども達は能力も様々で、受け止め方が全部違うと思います。そこで、分かった子と分からない子がクラスの中でも、差がついていってしまう。分かる子は、次の段階のことをパッとイメージ付けて分かるし、応用力もついていくと思うのですが、基本が分からない子ども達はいくら聞いても理解できなくて、授業が面白くない、学校も面白くないという状況がどんどん進んでしまいます。そうすると、学校での生活力の質も落ちて、楽しくない学校になっていくと思うのですが、そこを先生がキャッチして、その子でも分かる授業をして欲しいです。やはり学校は全員が勉強できる環境にあってほしい。授業の最後の振り返りでもいいですから、勉強の苦手な子に少しでも笑顔が出るような、そんな授業を思い描いていただければ、少しは向上するのではないかと思います。先生と子ども達が分かったかどうかアイコンタクトを交わすような雰囲気があれば子ども達も励まされますし、クラス全体が元気になれるのではないかと思います。ありがとうございます。

(指導主事)

少し話がそれるかもしれませんが、特別支援教育の観点でお伝えした

いと思います。現在、通常科の学級の中にも発達障害や様々な方面で個別の支援を必要としているお子さんはたくさんいます。その子たちには「短文で伝える」「結論から話す」「図式化して示す」という事を大切にしています。言葉だけの説明ですと、イメージできないお子さんもたくさんいます。そこで、本時の授業の進め方や、複雑な内容は言葉だけでなく、きちんと黒板上に提示するようにしています。そういった視覚的な補助というのが非常に大きな効果をもたらすものであり、特別支援教育のお子さんだけでなく、すべての子ども達の助けにもなります。そういうやり方を、授業のユニバーサルデザイン化といいます。どんな授業にも共通する、単純な図式化、短い指示というのは教員も、研修を積んでおり、今後、実践が出来るといいなと思います。そして、個人の見取り、はみだしという所では、一時間の授業の中ですべての子ども達に一斉に確実に見取れるかというのと、とても無理です。しかし、ノートやワークシートを集め、そこに目を通して教員が朱を入れるだけでも、先生がきちんと見てくれたという子ども達の安心感につながります。子どもの学びの意欲を引き出すためにもそうした活動が大事であると感じています。

(亀田委員)

そういった先生の一言で子ども達が救われる事もあると思うので大事にしてほしいと思います。それが先生の多忙化に繋がる可能性もありますが、そういう子ども達の支援こそが先生の仕事の本質だと思いますので、ご指導宜しくお願いいたします。

(秋山委員)

学校問題の中で、自分の子どもの話を聞いて良いなと思ったことがあるのですが、先生が振り返りの際、「去年は〇〇先生にこんな風に教えてもらったよね」というような言い方をしていたという話を聞きました。特に小学生でまた幼いと、前年と先生が変わるだけで、同じ内容でも違うものに思えてしまう子どももいると思います。そんな中で前年度との

繋がりを大事にしていただけるというのはとてもありがたいと思いました。また、校長先生のお話で、5、6年生になると算数も複雑になってくるため、理解が難しくなってくるが、中学校に入るまでに何とか力をつけてあげたいという思いで指導されているというものがありました。やはり、分からないままだと、知識は積みあがっていかないので、個別指導というのは学力向上にとっても必要な事だと、親として日々子どもを見て、感じています。

(教育長)

最初の点についてですが、これは、教員の働き方改革にもつながると思います。よく学級王国という言葉がありますが、やはり系統的な指導を確実に行う上で、その教員一人が、学級の中で閉じていては次に確実に引き継がれません。そこで今、学校で進めているのが、自分の作った指導案、そして教材、これらのデータを全て共通のフォルダに入れてどの学年でも引き出せる。又、次の年に担当した教員が確かめることができるという、自分の学びの為に作った物を学校で共有するというをやっています。

そして、個別指導の点についてなんですが、これは粟生小学校の例です。粟生小学校では、正直申し上げて、宿題をしてこない児童が多くいます。そして、そのまま授業に行くと益々負のリングが積みあがっていきますので、学校では昼学というものを行っています。勉強したい子や、宿題を忘れた子に集まってもらう場です。そうすると、やはり子ども達には学ぶ意欲がありまして、50人くらいの子どもが集まってくるそうです。どうしても勉強についてこられない子というのは、困った子ではなく、実際には困っている子ですので、個別指導、そして、そういった場で何とか解消に、意欲を引き出せるようにしていきたいと思っております。

4 閉会挨拶

最後に井出市長が閉会の挨拶を行った。

(市長)

それでは、まず、最初のコミュニティ・スクールの件ですが、これはふるさと愛の醸成ということがテーマだと思います。これは、学校で勉強してすぐ、ふるさと愛を発信していくことも大事だと思いますが、成長していく中で年々とふるさと愛が、醸成されていく事も大事なのかなと思います。例えば、高校や大学に行ったときに自分のふるさとの事を自慢する。あるいはUターンをしてくる、妻や夫を連れてくる。それから、親になったとき、自分の子どもに自分のふるさとのことを伝える。そして、高齢者になった時に今度は地域の子ども達に伝えていく。このように、年々とふるさと愛が繋がっていくという事も大事だと思っています。自然や、文化、歴史、スポーツの体験だけじゃなく、人もしっかりと伝えていく。それが、ふるさと愛の醸成だと思うので、是非そんなコミュニティ・スクールにしていきたいと思っています。

次に、能美市の学力向上の取り組みに関して、これまで何回か授業を参観させていただいた経験も踏まえてお話しいたします。学力というのは平均点だと思います。平均点をあげる為には、トップを動かすのか、底上げをするのかという二つの方法があるかと思いますが、私は、底上げをしていくという事が大事なのではないかと思っています。この間の授業を拝見させていただいた時には、どちらかという、出来る子を伸ばす授業が多かったのではないかなと思いました。おそらく皆さんも同じような事を感じたのではないかなと思います。やはり、先生の授業力やテクニックを磨いていくには、底上げ方式で引っ張る方法を考える事がポイントなのではないかと思っています。それからもう一つは、委員の方々もおっしゃっていましたが、先生個人の間力、魅力だと思います。自分の嫌いな先生から教わった事は中々耳に入ってこないという事は実際にあると思います。授業以外のところでも、生徒と先生が色んな形で接していくことで、人間関係が築かれていって、それが、学力向上に繋がっていくのではないかと思っています。

最後に、学力向上の取り組みに関する、保育園と小、中との連携というお話がありました。あるセミナーに参加させていただいた時に子ども

の愛情というのは2歳から3歳のこの時期がとても重要だと教えていただきました。能美市においても2歳から3歳のお子さんを持つ保護者の方々に色んなセミナー等をやっているのですが、そういったセミナーに参加しようという意欲のある方はおそらく、愛情を持って子どもに接してらっしゃるのではないかと思います。そういうセミナーに参加されない方をどのように支援していくかという事が大事ではないかと思えます。子どもだけではなく、そんなお子さんを持つご両親に対して支援をするという事も学力向上に繋がっていくのではないかと考えております。是非、教育長をはじめ、教育委員会の皆様、現場を預かる皆様の益々のお取り組みをご期待し、念じて、それから我々行政と一体となってやっていくという事をお誓い申し上げまして、最後の挨拶とさせていただきます。

5 閉会

午前11時54分終了